



地域組織の確立で
会員間の絆の促進を

ウクライナ侵攻への怒り、平和運動の取組みと

「村田きょうこ」支援を訴える

JAM安河内会長よりメッセージ



JAMシニアクラブの皆様の日頃の御活躍に敬意を表します。

ロシアによるウクライナ侵攻により新たな戦争がはじまりました。

幸いにも日本は第2次世界大戦以降、平和を享受してきましたが、21世紀に至っても世界は戦争に溢れています。

第2次世界大戦以降の戦争は、主に大国の

武力による現状打破を試みた戦争であり、中東アジアの置かれている現状を見ても、ウクライナ侵攻によってロシアが支払わなければならない代償の大きさを考えても、耐え難い怒りと悲しみのほかは、

何一つ勝ち得たものはありません。ややもすれば米中の覇権争いが議論になりますが、大国の覇権主義に決別し、新たな秩序を模索する時代の転換点に立つべきだと考えます。

私たちJAMは結成以来一貫して核兵器の

根絶を訴えてきました。核共有の議論を国会で始めるだけでも、東アジアの安全保障に緊張が走り、戦争を引き寄せてしまうのではないかと強い危機感を持っています。核共有は論外であり、議論するまでもなく結論が出てい

ると主張できる政治家を一人でも多く育てていくことが、平和を守り、自由と民主主義を守ることにつながります。

JAMシニアクラブの皆様におかれましては、常に現役の運動を

力強く応援していただ

いております。とりわけ政策実現活動においては、医療・年金制度の改善や平和への取り組みなど示唆に富んだ運動を精力的に取り組んでおられます。こうした運動を更に「きょうこ」(強固)な運動にしていくためにも、「村田きょうこ」への更なるご支援を心からお願い申し上げます。

すべての働く仲間の代表として「村田きょうこ」を国会へ。JAMの総力を挙げて「村田きょうこ」必勝に取り組んでまいりますので、今後ともご指導ご鞭撻をお願い申し上げます。

しかし、書面交付の電子化を認める内容となったことは、デジタル技術に慣れていない高齢者や新たに成年年齢の引き下げで大人扱いされる若年層の消費トラブル増加が懸念されます。また訪問販売・

特定商取引法改正と消費者被害防止の取組み

2021年の通常国会で、「特定商取引法・預託法の改正法案」が成立しました。改正法では、詐欺的お試し定期購入被害への対策や、ジャパンライフ・安愚楽牧場等大規模消費者被害を発生させてきたどでの改善が実現しました。

日弁連の消費者問題対策委員会や全国消費者行政ウォッチねっと(事務局長・押師徳彦弁護士)などとともに、特商法改正実現連絡会に参加し、問題点の周知と被害の事前防止のため、連続学習会やシンポジウムの開催に協力しています。

不招請勧誘やマルチ商法そしてデジタル化時代に拡大する通信販売など、高齢者や若者を食い物にする「特定商取引」の規制強化は喫緊の課題となっております。

69年頃のこと、当時は自慢の愛車に乗って夜通しでドライブに興じたものだった。カーラジオからは大好きな「夜明けのスクヤット」が流れる中、私は関西の某製薬会社が国内で初めて労働組合の委員長を取締役に登用するというニュースを聞いた。当時メディアを通して「労使協調」的なことが世間に発せられるのは稀なことだった。労働組合に関わる者なら、このホットニュースを聞いて何かしら感化される部分があったのではないかと思う。

数年後、あるラジオ番組に出演した某研究所の方が「農業協同組合と労働組合」は今後消滅すると話し懐疑的な驚きがあったと記憶

主張



「政策制度」の実現に向け組織の枠に留まらな

らな

今日この頃である。

うすれゆく想い出といま

秋田シニア代表幹事 佐々木光雄

帯が強化されれば、労働組合としてこれかも長く続いていくのではないかと期待している。まあ私の立場で言えば社会保障環境の変化に伴う高齢者向けの政策実現を求めていききたいものだ。

「朝日」が射し、ヘッドライトが薄れていく・・・誰も待ち望んでいない、そんな

本番間近に迫った「村田きょうこ」の闘いを機に政権交代へと繋げていきたい。

医療現場の惨状がウツらないように、現実との歪みを増幅させ「政策の本気度」も伝わってこない。

政権選択責任の一端は有権者にもあるが、民意を軽視してはならないのが政治である。

「朝日」が射し、ヘッドライトが薄れていく・・・誰も待ち望んでいない、そんな

本番間近に迫った「村田きょうこ」の闘いを機に政権交代へと繋げていきたい。

医療現場の惨状がウツらないように、現実との歪みを増幅させ「政策の本気度」も伝わってこない。

我々の代表「村田きょうこ」を

参議院に送ろう

本年7月実施予定の第26回参議院議員選挙まであと3か月余り。村田きょうこ支援の輪はどんどん広がっています。現在、JAMシニアクラブの全

国の仲間が「応援カード」の取組みを展開中です。シニアのパワーで「村田きょうこ」を我々の代表として参議院に送り込みましょう。

今回は、村田きょうこ本人からJAMシニアクラブに寄せられたメッセージを紹介いたします。

JAMシニアクラブの皆様へ

JAMシニアクラブの皆様、こんにちは。村田きょうこです。

私は、今年の7月に施行される第26回参議院議員選挙に、JAM推薦



候補として挑戦致します！

私は、「大切な人の命や健康を守る社会」「安心の社会保障制度」を政策に掲げています。

超少子高齢社会である日本において、誰も笑顔で生き生きと安心して暮らしていくためには、何よりも雇用秩序を回復し、すべての国民が安心して老年期を迎えることのできる国づくりと、国民生活に最も身近な医療や介護の充実などが重要と考えています。

・医療については、良質な医療サービスを実現させたいと考えております。
 ・誰もが住み慣れた地域で安心して暮らし続けられるよう、患者本位で質の高い医療を切れ目なく受けられることが重要です。
 ・そのためには医師や看護師が不足している課題を克服しなければなりません。

・将来の予想を踏まえた人材・資源の適正な配置など医療供給体制の整備や医療現場で働く者全体の処遇の改善、労働時間

短縮の取り組みを前進させ、離職防止や復職促進につなげていくことで、良質な医療サービスの実現をさせたいと考えております。

・介護については、誰もが必要な時に、必要なサービスを受けられるようにしたいと考えています。

・介護サービスに対する需要は加速度的に増大し、多様化することが見込まれるなかで、介護保険制度の持続可能性の確保や慢性的に不足している介護人材の確保などの課題に直面しています。

・誰もが必要な時に必要なサービスを受けられるよう、国の主導の下で介護士の処遇を改善し、優秀な人材の確保・定着を図っていききたいと考えています。

あなたの笑顔を見たいから、これを読んでいただきます。皆様の笑顔が見たいから、私は第26回参議院選挙に当選するためにはシニアクラブの皆様のお力がどうしても必要です。村田きょうこへのご支援、何卒よろしくお願いいたします！

「ジェンダー平等学習会」に参加して



日本退職者連合は国際女性デーの前日の3月7日、東京の連合会館でWEBを含め約百人の参加で社会学者の上野千鶴子東京大学名誉教授を講師に「ジェンダー平等学習会」を開催しました。上野千鶴子名誉教授の演題「アンチ・アンチエイジングの思想／ボーヴォワール『老い』を読む」を聞き、特に印象に残ったことを報告します。

エイジングとは「若さに価値がつく」「年取ったことにマイナスがつく」社会のこと。アンチエイジングとはしわ取りクリームとか、できるだけ若さを維持しようという考え方で、それに対抗する思想ということ

す。他人事の老人問題ではなく、誰にも共通する自分の老後問題として社会的な課題の解決に取り組むことを激励する内容でした。

「サクセスフルエイジング（成功加齢）」は、老い衰えることを見たくない、考えたくない思想で、ピンピンコロリ運動となる。でも無理。ほとんどの人はゆっくり死ぬ。ゆっくり階段を下りて行って要介護になる

「人生百年時代。人生の前半は上り坂だが、後半は下り坂。個人史も下り坂で、社会全体も下り坂に入っている」「人生の最後に必ず『ヨタヘロ期』がやってくる。そこで社会保障の問題になる」とし、高齢社会保障の条件として居住福祉を重視し、住宅十年金+医療

十介護の国民皆保険に触れ、保険料を払う介護保険で、サービスを受ける権利意識が生まれ、ただ働きだったケア労働が「ただ働き」でなくなると述べて続けた。

「降りるときは『支えあ」と分ち合い』だ。フェミニズムは弱者が弱者のままで尊重される社会を求め

る思想だ。認知症は今のところ、予防も原因も治療法もわからない。だれがなるかわからない。5人に一人はなる。認知症になっても、

障害を持っても安心して過ごせる社会が願いだ」と強調した。

介護保険以前は在宅の看取りは困難で、在宅を支えるのは医者でも看護師でもなく、介護職であり、その介護職を支える介護保険が今えらいことになっているとして、「政府が考えているのは、要介護は軽度を外す。要介護3以上に限定して三段階くらいにする。生活援助を外して身体介護に限定。ケアプランの有料化。

介護施設の基準配置を3対1から4対1に。こういうのを制度の空洞化といい、制度はあるけど使えない」「やっと介護の社会化の第一歩を踏み出したところ。

これが、もう一度家族に戻るか、自分で介護サービスを買うかのどちらかになる。介護保険の改悪をぜひ押し返したい」と決意を述べました。

最後に「人類がより良い時代に向かって進んでいると到底思えない。今のウクライナ。香港とミャンマー」

「退職者連合の皆さんには、次の世代に誇りをもって手渡すことができるような世の中を残していただきたい」と期待を述べました。
 (参加者の大山会長記)